

# ～ 認知症の検査 ～

認知症にはさまざまな種類があり、代表的な認知症には、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症などがあります。

当院での認知症検査は、画像検査(MRIまたはCT検査)、認知機能検査、身体検査(血液検査、尿検査、心電図)などの複数の検査を行い、専門医が総合的に診断を行います。

## ◆ アルツハイマー型認知症

3大認知症の中で最も多い認知症です。

アルツハイマー型認知症は、脳内に「アミロイドβ」や「タウ」などの異常なタンパク質が蓄積され、脳の神経細胞の働きを低下させると言われています。

画像的視点からは脳の奥にある海馬を中心に頭頂葉や側頭葉が萎縮することによって発症するとされています。

## ◆ 脳血管性認知症

脳卒中(脳出血や脳梗塞)などが原因で発症する認知症です。

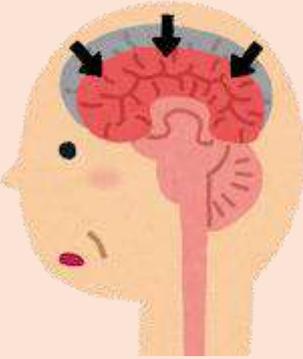
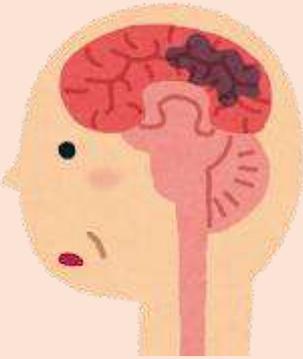
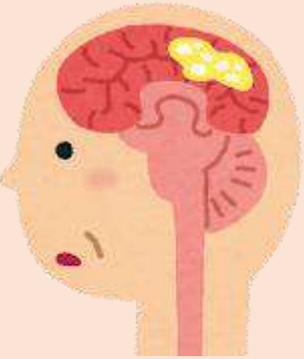
脳血管障害は高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病による動脈硬化などに関連性が高いとされています。

## ◆ レビー小体型認知症

レビー小体型認知症は、脳内に異常なタンパク質が蓄積し発症する認知症です。

パーキンソン病に似た運動障害や症状が進行していくと、幻視(見えないものが見える)、妄想、歩行障害などの症状がみられるとされています。

## 代表的な3大認知症の脳の変化

アルツハイマー型認知症	脳血管性認知症	レビー小体型認知症
		
脳内の異常なタンパク質の蓄積で神経細胞が死滅し記憶をつかさどる海馬を中心に委縮する。	脳梗塞や脳出血などが原因で脳内の神経細胞が部分的に死滅する。	レビー小体と呼ばれる異常なタンパク質が蓄積し、脳内の神経細胞が死滅する。

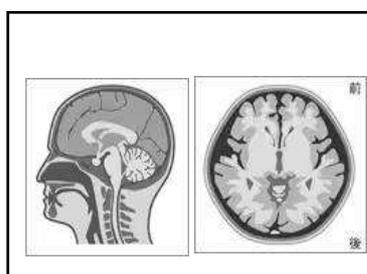
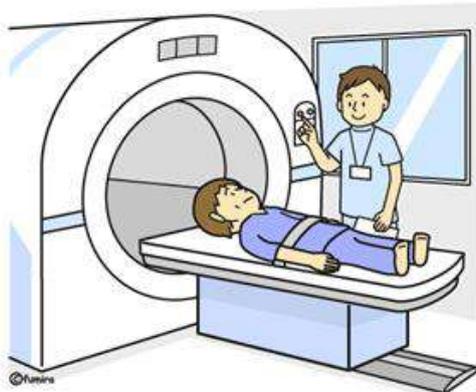
## 【 認知症の画像検査 】

認知症の代表的な画像検査には、頭部 MRI 検査(磁気共鳴画像検査)や SPECT 検査(脳血流を評価する検査)などがあります。

当院においての認知症の画像検査は頭部 MRI 検査で対応しています。但し、体内に金属性の人工物が入っている方や狭いところが苦手な方など、検査が出来ない場合には、頭部 CT 検査で対応する場合があります。

### MRI 検査

エムアールアイ  
MRI検査



エムアールアイ フイエスラド  
MRI・VSRADは  
脳の断面像です。

頭の MRI 検査では、いろんな角度から脳の断面を撮影して、脳の萎縮や出血や梗塞、腫瘍などがいないかを調べることができます。また、VSRAD(ブイエスラド)というソフトを使用してアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の診断に役立つ情報が得られます。

## 【神経心理学検査】

記憶力、注意力、判断力など認知機能の程度を調べる検査で、認知症の適切な診断を補助します。スクリーニング検査として「長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)」や「ミニメンタルステート検査(MMSE)」を行い、その他、ケースに応じて追加検査を行います。

### 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)

所要時間 10 分程度。

短時間にできる簡易的な認知機能検査で、すべて口述で回答します。

見当識や記憶、計算などの項目があり、記憶力を中心とした認知機能を大まかに評価します。

### ミニメンタルステート検査(MMSE)

所要時間 15 分程度。

比較的短時間にできる簡易的な認知機能検査で、見当識や記憶、計算など口述で回答する項目以外に、記述や描画があります。

記憶力をはじめ、言語能力や視空間認知力などの認知機能を大まかに評価します。



## 【血液検査】

認知症によっては肝機能や腎機能が低下することや、ビタミンB1、B12が不足することが原因で発症することがありますので、血液検査で確認します。

また、血液検査を行うことで、感染症の有無やホルモンの量も確認し、認知症の原因を調べます。

